



北野中学校だより

誠・力・光

10月



令和8年度 10月号

魔法の言葉

校長 岩本 眞由美

生徒たちにとって、学校は1つの社会です。生徒たちは、この中で、大人になって本当の社会に出るために、様々な準備をしています。しっかりと学習し、社会で生きるための基礎的・基本的な知識はもちろん、物事の捉え方や考え方を学び、自分の力で社会を生き抜く力を付けています。校外学習や宿泊行事等で、ルールやマナーを考えたり、運動会等の行事で、達成感を味わったりしながら、皆で生きていくことについて考えます。委員会活動や部活動等を通して、役割や責任について実感したり、違う学年の人との関わり方を学んだりしています。学級では、ほぼ同じ年齢の仲間との活動から、差異を認め、共に生きていくための方法や考え方を日々、体験的に学んでいます。こうして、様々な「集団」の中で多くの経験をするすることで、一人一人の成長へとつながっています。

では、生徒にとって、一番小さな集団は何でしょうか。それは、「家庭」です。生まれて最初に出会う自分ではない人たちは、家族なのです。「家庭」という集団の中で人間関係を育み、生徒は大人へと成長していきます。

1998年、ドロシー・ロー・ノルト氏が執筆した「子どもが育つ魔法の言葉」は、その後、37カ国で訳され、日本でも話題になりました。時代は違えど、現代にも通じる言葉がつづられています。

「親は子どもにとって人生で最初に出会う、最も影響力のある[手本]であり、毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力をもつのです。」と著書に書かれています。

学校においては、教師が大きな教育環境であり、生徒の手本となっていくべき存在です。

親として、教師としてなかなかマニュアル通りにいかないのが子育てではありますが、人生で最も尊い仕事に取り組んでいるとの責任感とやりがいを感じながら、生徒のもつ力を信じ、何が起きようとも生徒が生き生きとした毎日を送ることができるように見守っていきたいものです。

令和8年度も残り半年をきりましたが、充実した日々となるよう教職員一同、取り組んでまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引込み思案な子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ

やさしく思いやりをもって育てれば、子どもはやさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる。